

地域別計画(案)について

地域別の取り組みを内間木地域、北部地域、東部地域、西部地域、南部地域ごとに示し、地域の特性を踏まえたみどりのまちづくりを展開します。

地域別計画は、地域別の「みどりのカルテ」と「地域別のみどりの方針」から構成されます。「みどりのカルテ」は、市民アンケート調査によるみどりへの意識や評価を取りまとめているほか、多面的なみどりのはたらきの視点による地域のみどりの特色を取りまとめています。「地域別のみどりの方針」は、各地域における主要な課題を整理するとともに主な取り組みを地域ごとのみどりの方針図と合わせて定めています。

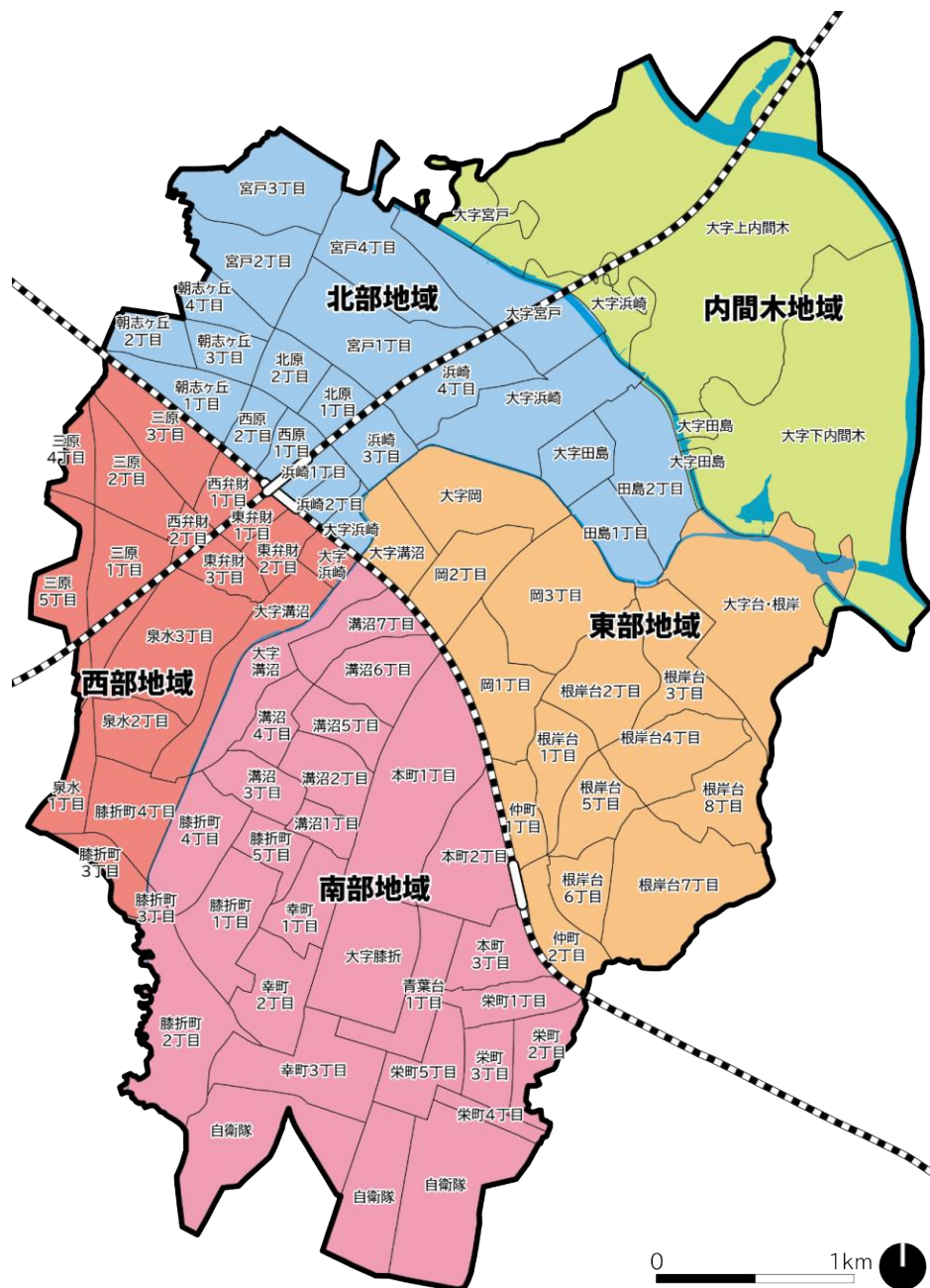


図 地域別計画の地域割り

内間木地域

面 積		人 口		みどり率	
3.7km ²		1,309 人		64.7%	
市民アンケート調査	問 1 みどりに対する満足度 (回答の平均)	b.お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している		0.36 (そう思わない-1.0~1.0 思う)	
		d.お住いの近くの公園に満足している		0.04 (そう思わない-1.0~1.0 思う)	
		g.災害時に避難地や活動拠点として機能する公園がある		0.04 (そう思わない-1.0~1.0 思う)	
		h.良いまちの景観がつくられている		0.00 (そう思わない-1.0~1.0 思う)	
	問 2 豊か・魅力的と感じるみどり	新河岸川（22 件）、荒川（5 件）、秋ヶ瀬（2 件）			
	問 3 将来に残したいと思うみどり	新河岸川（6 件）、荒川（3 件）、秋ヶ瀬（1 件）			
	問 4 年間公園利用頻度 (回答の平均)	13.5 回（市全体 30.9 回）			
	問 5 近くの公園の評価 (回答の平均)	a.ベンチなどの休憩施設が充実している	0.22 (そう思わない-1.0~1.0 思う)	b.安全に遊べる遊具が充実している	-0.06 (そう思わない-1.0~1.0 思う)
		c.公園の植物がよい景観をつくっている	0.11 (そう思わない-1.0~1.0 思う)	h.近くの住民によく利用されている	-0.06 (そう思わない-1.0~1.0 思う)
	問 6 みどりのまちづくりに必要な施策 (上位を表示)	【1 位】だれもが気軽に利用できるように小規模でも身近な公園や緑地を充実させる（34.4%）		【2 位】健康づくりや自然とのふれあいの場となる川沿いの散歩道を充実させる（21.9%）	
【3 位】道路においてみどり豊かで安全に歩ける歩道空間を整備する（12.5%）		【4 位】民間の協力を得て、魅力的な公園的空間を整備し運営する（6.3%）、公園や河川、農地を活用したイベントを充実させる（6.3%）、まちづくりへの参加やイベントなどの情報発信を充実させる（6.3%）			
問 7 緑化活動等への参加経験 (回答者における割合)	【1 位】生け垣や花壇など自宅の庭の緑化（28.6%）		【1 位】全てに参加したことがない（28.6%）		
	【3 位】道路などの清掃活動（23.8%）		【4 位】市民農園や近所の空き地を借りた野菜や草花の生産（9.5%）		
問 10 みどりを守るための仮定の支払額 (支払額の平均)	【1 位】こどもの遊び場や散策の場となるみどり（¥310）		【2 位】CO ₂ の吸収減となり地球温暖化を緩和するみどり（¥215）		
	【3 位】日射の緩和等により都市の気温上昇を緩和するみどり（¥135）		【4 位】まちの美観、表土の風景を形成するみどり（¥70）		

みどりのカルテ

地域	町丁目	雨水の 地表面浸 透量 (mm/日)	雨水の 地表面排 水量 (mm/日)	地表面温 度 (℃)	炭素固定 量 (t/ha/年)	生物指標 の 多様度 (%)	豊か・魅力 と 感じる みどりの 回答数 (件)	農業活動 空間面積 率 (%)	散策路・歩 道の長さ (m/ha)	必要公園面 積に対する 現況公園の 過不足面積 (ha)	イベント開 催に供する オープンス ペース面積 (㎡/人)	非水害時に おける一人 あたりの避 難有効面積 (㎡/人)	水害時に おける一人 あたりの避 難有効面積 (㎡/人)
内 間 木	大字上内間木	0.45	0.66	32.08	2.38	38.07	10.19	9.5%	49.9	2.04	96.64	95.01	21.11
	大字下内間木	0.50	0.28	30.93	3.32	48.29	16.31	9.7%	76.7	0.50	86.57	66.91	17.09
	大字宮戸の一部	0.50	0.06	30.83	3.81	52.37	9.63	25.6%	1.0	0.06	0.69	28.93	0.40
	大字浜崎の一部	0.58	0.50	31.51	2.99	45.60	12.79	3.4%	12.4	1.53	44.13	42.16	1.51
	大字田島の一部	0.38	0.28	31.34	2.24	41.42	13.31	0.2%	8.7	1.25	11.56	9.61	1.33
	大字田島の一部	0.49	0.02	29.81	3.23	56.27	24.14	0.0%	0.0	2.67	31.35	15.46	0.27
	地域全体	0.47	0.49	31.58	2.79	42.64	12.61	9.7%	56.5	1.39	87.27	79.78	18.08
	朝霞市全域	0.77	1.08	33.06	1.59	32.47	11.22	9.9%	75.1	-1.21	32.12	32.95	14.95

グリーンインフラの効用別分析

健全な水循環を 支えるみどり	本地域は地下水位が浅いことから雨水の地表面浸透能力は多くありません。地域として雨水を一時的に貯めることが求められます。
都市の気温上昇を 抑えるみどり	荒川や新河岸川といった河川の水辺に囲まれており、夏季に水が張られる水田や緑陰を形成する河畔林や屋敷林などの樹林が分布しています。このため、他地域と比べ推測地表面温度の平均が低くなっています。近年、物流等の事業所や工場が集積しており、ヒートアイランド現象が認められます。
地球温暖化防止に 貢献するみどり	本地域は、荒川や新河岸川、朝霞調整池の広大な草地が分布するほか、田畑や屋敷林、河畔林などが分布しており、二酸化炭素の吸収源として大きな役割を果たしている。
生き物の 生息空間となる みどり	朝霞調整池は、開放水面から湿地、河畔林へと移行するエコトーンを包含しており、生物指標の多様度が高い結果となりました。また、新河岸川や荒川も高い評価となりました。新河岸川や荒川は、広域的なエコロジカルネットワークの形成に寄与する重要な生物生息空間であり、その中でも朝霞調整池及びその周辺は優れた自然環境として評価できます。域内に点在する屋敷林や平地林も森林性～草原性の環境を好む生き物たちの生息場所を提供していると思われます。
まちの美観・ 郷土の風景を 形成するみどり	荒川、新河岸川、朝霞調整池は、豊か・魅力的と感じるみどりとして市民に認知されています。これらの水辺の景観や田園景観は内間木地域の良好な景観を形成しています。
暮らしに息づく 農業活動の場となる みどり	本地域は市街化調整区域になり、まとまった農地が分布しています。農地は水田や蔬菜畑等が主なもので、近年は休耕地も多くみられます。
健康づくりの 場となる みどり	荒川にはサイクリングやジョギング、散歩ができるルートが広域的に整備されています。一方、新河岸川左岸には遊歩道は整備されていません。今後計画される和光富士見バイパスの延伸整備により内間木地域を縦断する歩道の整備が期待されます。
身近な 遊び場となる みどり	本地域の公園は少ない状況です。一方、荒川や新河岸川の広大なみどりと水辺の空間があるほか、社寺境内地があり、域内の緑地空間の有効活用も考えられます。和光富士見バイパスの延伸事業に伴い、内間木公園の再整備が計画されており、本地区の拠点となる公園整備が期待されます。
にぎわいや 交流の場となる みどり	本地域では、内間木公園や社寺境内地が、イベント開催に供するオープンスペースとして考えられます。
防災拠点 となるみどり	内間木公園の再整備において、防災機能の充実が期待されます。

内間木地域のみどりの方針

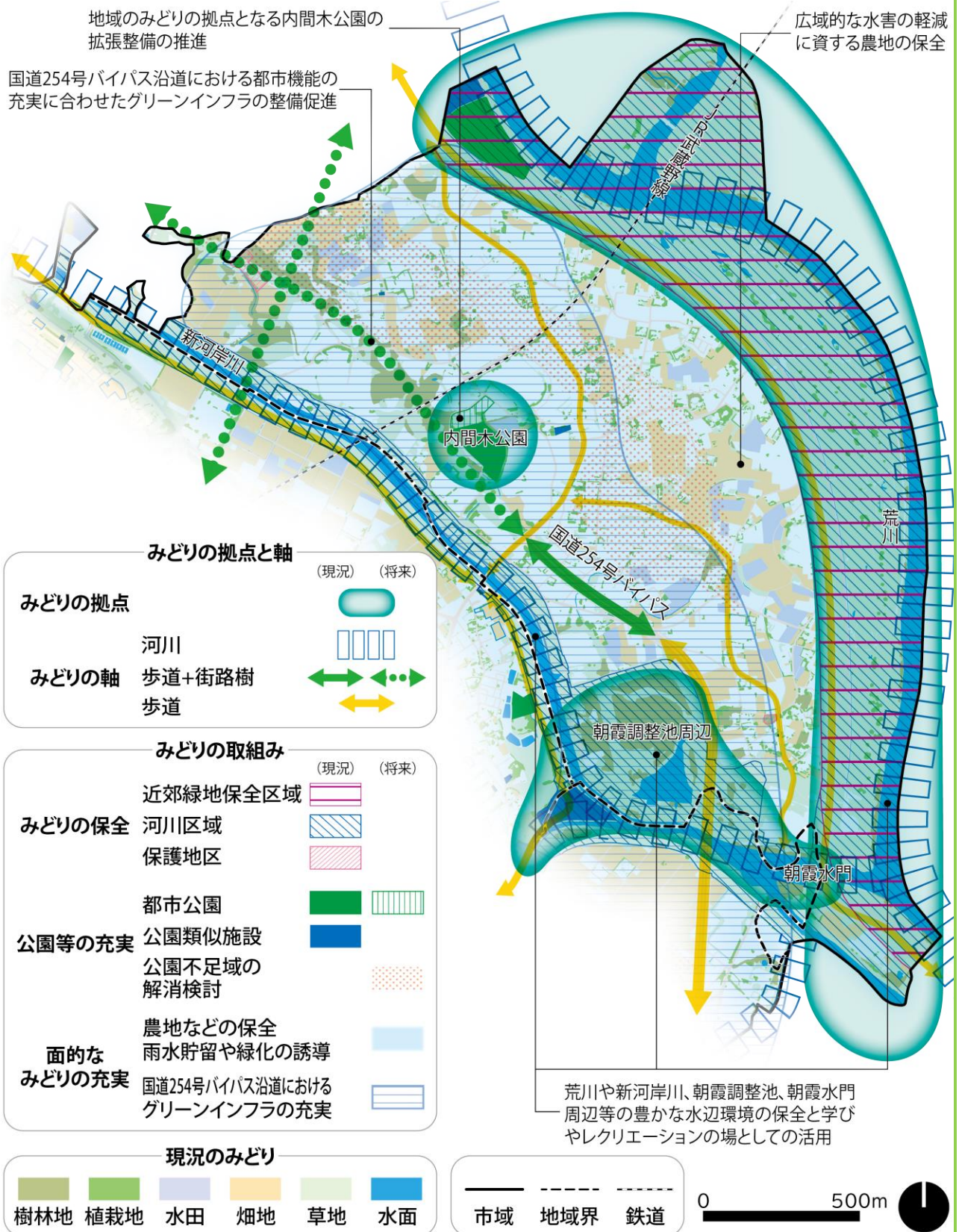
主要な課題

- 《身近な公園の不足》 本地域は公園が少なく、市民アンケートでも身近な憩いの場を求める声が最も多く挙がっています。
- 《水辺空間の柔軟な活用》 荒川河川敷や新河岸川、朝霞調整池などの豊かな自然環境が分布していることから、これらの自然環境の保全を図りながら、遊び場や自然との触れ合いの場、体力増進の場として、柔軟に生かす方策を検討する必要があります。
- 《田園景観の保全と活用》 使われていない農地(休耕地)が比較的多く、この地域ならではの田園風景や、そこに息づく生態系をどう守り、活用していくかが問われています。
- 《水害リスクへの備え》 川に近く土地が低いため、大雨による浸水のリスクが高い一方、災害時に安全を確保できる場所が不足しています。
- 《人工的被覆の増加による環境保全機能の低下》 近年、工場などが増え、アスファルトで覆われた地面が多くなったため、夏場の地表面温度の上昇や降雨時の表面排水の増加が課題です。

主な取り組み

- ① 暮らしを支えるみどりの拠点とネットワークを創出する
 - a. 公園が不足している現状に対して、内間木公園の拡張整備を推進します。
住民参加のワークショップなどを通じて、「自分たちの手で育てる公園」としてリニューアルし、身近な遊び場として、また地域の交流拠点や防災拠点として整備推進を検討します。
 - b. バイパス等の整備に伴う周辺地域の開発においては、内間木公園などの地域の拠点的なみどりとのネットワークの形成を踏まえ、植樹帯や公園等のみどりの空間の充実を促進します。
- ② 田園と水辺の景観を保全・活用する
 - a. 農業担い手の育成や営農支援を図るとともに、農地バンクの検討などを行い、農地の保全を促進します。
 - b. 地域の財産である田園風景や水辺環境を守りながら、その魅力を市民が享受できるような活用方法を検討します。
 - c. 荒川や新河岸川、朝霞調整池、朝霞水門周辺の豊かな自然景観を守りながら活かし地域内外の人が楽しめる魅力的な水辺空間づくりを検討します。
- ③ 災害に強く、環境にやさしい地域を築く
 - a. 農地の保全を図るとともに、開発される場合は雨水の貯留機能の確保を促進させるなど、雨水を一時的に貯める機能に着目し、水害リスクの軽減を図る本地域の在り方を検討します。
 - b. バイパス等の整備に伴う周辺地域の開発においては、グリーンインフラを踏まえた環境や景観に配慮した取り組みの促進を検討します。

みどりの方針図



北部地域

面 積		人 口		みどり率		
3.4km ²		30,979 人		31.3%		
市民アンケート調査	問 1 みどりに対する満足度 (回答の平均)	b.お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している		-0.02 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)		
		d.お住いの近くの公園に満足している		-0.12 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)		
		g.災害時に避難地や活動拠点として機能する公園がある		-0.18 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)		
		h.良いまちの景観がつくられている		-0.02 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)		
	問 2 豊か・魅力的と感じるみどり	黒目川（331 件）、新河岸川（22 件）、わくわくドーム（9 件）、田島緑地（9 件）、北割公園（3 件）、北朝霞公園（2 件）				
	問 3 将来に残したいと思うみどり	黒目川（154 件）、新河岸川（6 件）、わくわくドーム（2 件）、田島緑地（2 件）、北割公園（2 件）、北朝霞公園（2 件）				
	問 4 年間公園利用頻度 (回答の平均)	29.3 回（市全体 30.9 回）				
	問 5 近くの公園の評価 (回答の平均)	a.ベンチなどの休憩施設が充実している	-0.14 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)	b.安全に遊べる遊具が充実している	-0.02 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)	
		c.公園の植物がよい景観をつくっている	0.04 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)	h.近くの住民によく利用されている	-0.39 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)	
	問 6 みどりのまちづくりに必要な施策 (上位を表示)	【1 位】道路においてみどり豊かで安全に歩ける歩道空間を整備する（16.5%）		【2 位】だれもが気軽に利用できるように小規模でも身近な公園や緑地を充実させる（15.4%）		
【3 位】健康づくりや自然とのふれあいの場となる川沿いの散歩道を充実させる（14.3%）		【4 位】様々なレクリエーションを楽しむように大きな公園を充実させる（8.1%）				
問 7 緑化活動等への参加経験 (回答者における割合)	【1 位】全てに参加したことがない（11.7%）		【2 位】生け垣や花壇など自宅の庭の緑化（10.5%）			
	【3 位】道路などの清掃活動（9.2%）		【4 位】市民農園や近所の空き地を借りた野菜や草花の生産（7.2%）			
問 10 みどりを守るための仮定の支払額 (支払額の平均)	【1 位】こどもの遊び場や散策の場となるみどり（¥151）		【2 位】CO2 の吸収減となり地球温暖化を緩和するみどり（¥151）			
	【3 位】水害の軽減など自然災害による被害を軽減するみどり（¥135）		【4 位】日射の緩和等により都市の気温上昇を緩和するみどり（¥121）			



みどりのカルテ

地域	町丁目	雨水の 地表面浸 透量 (mm/日)	雨水の 地表面排 水量 (mm/日)	地表面温 度 (℃)	炭素固定 量 (t/ha/年)	生物指標 の 多様度 (%)	豊か・魅力 とを感じる みどりの 回答数 (件)	農業活動 空間面積 率 (%)	散策路・歩 道の長さ (m/ha)	必要公園面 積に対する 現況公園の 過不足面積 (ha)	イベント開 催に供する オープンス ペース面積 (㎡/人)	非水害時に おける一人 あたりの避 難有効面積 (㎡/人)	水害時に おける一人 あたりの避 難有効面積 (㎡/人)
北部	北原1丁目	1.02	1.33	33.96	0.87	22.29	8.14	8.5%	105.4	-3.61	5.05	4.45	3.58
	北原2丁目	0.70	1.64	34.42	0.29	19.03	0.52	0.0%	137.9	-3.85	2.11	2.97	2.97
	西原1丁目	0.29	2.01	34.54	0.22	11.65	0.49	2.9%	160.7	-4.77	3.71	3.31	3.15
	西原2丁目	0.58	1.69	34.44	0.26	17.07	1.90	2.4%	55.8	-4.48	1.95	2.62	2.62
	浜崎1丁目	0.53	1.72	34.42	0.32	18.40	0.62	1.1%	164.4	-2.59	6.86	4.92	3.06
	浜崎2丁目	0.79	1.26	33.62	1.12	28.93	2.30	13.6%	163.7	-2.64	10.64	8.38	2.40
	浜崎4丁目	0.78	1.16	33.61	1.25	32.10	2.47	13.0%	45.3	-2.35	10.72	15.14	0.78
	浜崎3丁目	0.60	1.37	33.86	0.76	24.53	27.33	3.6%	201.0	-1.84	13.72	15.23	3.20
	朝志ヶ丘1丁目	0.82	1.50	33.60	1.02	28.97	1.42	0.0%	130.2	-10.06	0.82	1.36	1.36
	朝志ヶ丘2丁目	0.99	1.16	33.97	0.84	28.99	0.97	1.0%	12.8	-5.77	0.72	0.79	0.79
	朝志ヶ丘3丁目	0.87	1.43	34.59	0.38	26.83	0.86	4.1%	26.6	-6.56	0.77	1.72	1.72
	朝志ヶ丘4丁目	0.72	1.57	34.54	0.38	21.73	0.85	4.9%	9.3	-7.51	0.48	1.09	1.09
	宮戸1丁目	0.56	1.78	33.28	0.59	15.97	1.10	2.1%	35.7	-1.21	2.02	3.04	1.60
	宮戸2丁目	0.96	1.31	34.25	0.78	25.64	1.37	7.8%	26.3	-4.85	0.77	0.54	0.54
	宮戸3丁目	0.87	1.07	33.59	1.18	33.65	3.04	11.6%	60.4	-2.94	2.09	1.15	0.42
	宮戸4丁目	0.93	1.15	33.56	1.23	31.05	2.66	9.7%	115.2	-3.79	1.33	3.04	0.35
	田島1丁目	0.40	1.32	33.70	0.73	24.69	52.47	3.6%	210.2	2.48	27.26	14.23	4.58
	田島2丁目	0.45	1.00	32.63	1.95	37.59	17.82	6.5%	167.4	0.59	22.74	11.10	1.60
	大字浜崎の一部	0.62	0.53	32.15	2.85	39.77	26.05	42.5%	79.7	1.02	26.59	32.03	1.18
	大字浜崎の一部	0.45	1.07	32.53	1.61	35.52	84.29	10.9%	97.5	0.70	14.97	13.27	1.12
	大字宮戸の一部	0.45	0.59	31.75	2.79	41.59	9.74	25.7%	58.3	0.52	5.17	19.93	0.65
	大字田島の一部	0.53	0.76	33.07	2.01	28.90	22.33	30.5%	88.7	3.02	33.58	23.51	0.95
	地域全体	0.68	1.18	33.35	1.33	29.40	10.74	12.2%	88.8	-2.15	9.30	9.86	1.43
朝霞市全域		0.77	1.08	33.06	1.59	32.47	11.22	9.9%	75.1	-1.21	32.12	32.95	14.95

グリーンインフラの効用別分析

健全な水循環を 支えるみどり	段丘面では都市的土地利用が多く、雨水の浸透量は市全体より低いですが、農地や公園などの自然面では雨水浸透能力が高く、水害防止や地下水涵養に貢献しています。
都市の気温上昇を 抑えるみどり	都市的土地利用や畑地が多いため、全体的に地表面温度が高い傾向にありますが、川沿いや樹林のあるエリアではクールスポットが形成され、ヒートアイランド現象の緩和に役立っています。
地球温暖化防止に 貢献するみどり	斜面林や川沿いの草地、畑地は二酸化炭素の吸収源となっていますが、雑木林では樹林の老齢化やナラ枯れの被害が進んでいます。
生き物の 生息空間となる みどり	新河岸川と黒目川は生物多様性が高く、農地と河川空間が一体となって生き物の生息場所を提供しています。市街地内でも小規模な生き物空間が形成されています。
まちの美観・ 郷土の風景を 形成するみどり	黒目川や公園、畑、並木道などが地域のみどりとして評価されていますが、みどりの景観資源が乏しい地区も存在します。
暮らしに息づく 農業活動の場となる みどり	宮戸から田島にかけて農地が連続して分布し、市街地でも小規模な農地が点在しています。宮戸3丁目の斜面林と一体となった田んぼの保全も検討されています。
健康づくりの 場となる みどり	川沿いの遊歩道はジョギングや散歩に利用され、健康まちづくりの資源となっていますが、駅から離れた地域では歩道ネットワークが十分ではありません。
身近な 遊び場となる みどり	市街地では人口増加に公園整備が追いついておらず、特に朝志ヶ丘から宮戸付近で不足していますが、新たに「みやど公園」が整備されました。保全緑地も遊び場としてのポテンシャルがあります。
にぎわいや 交流の場となる みどり	市街地ではイベント用のオープンスペースが不足しており、既存の公園や公共空間を活用して交流の場を充実させることが重要です。
防災拠点となるみどり	宮戸から朝志ヶ丘にかけて防災拠点となる都市公園も不足しています。

北部地域のみどりの方針

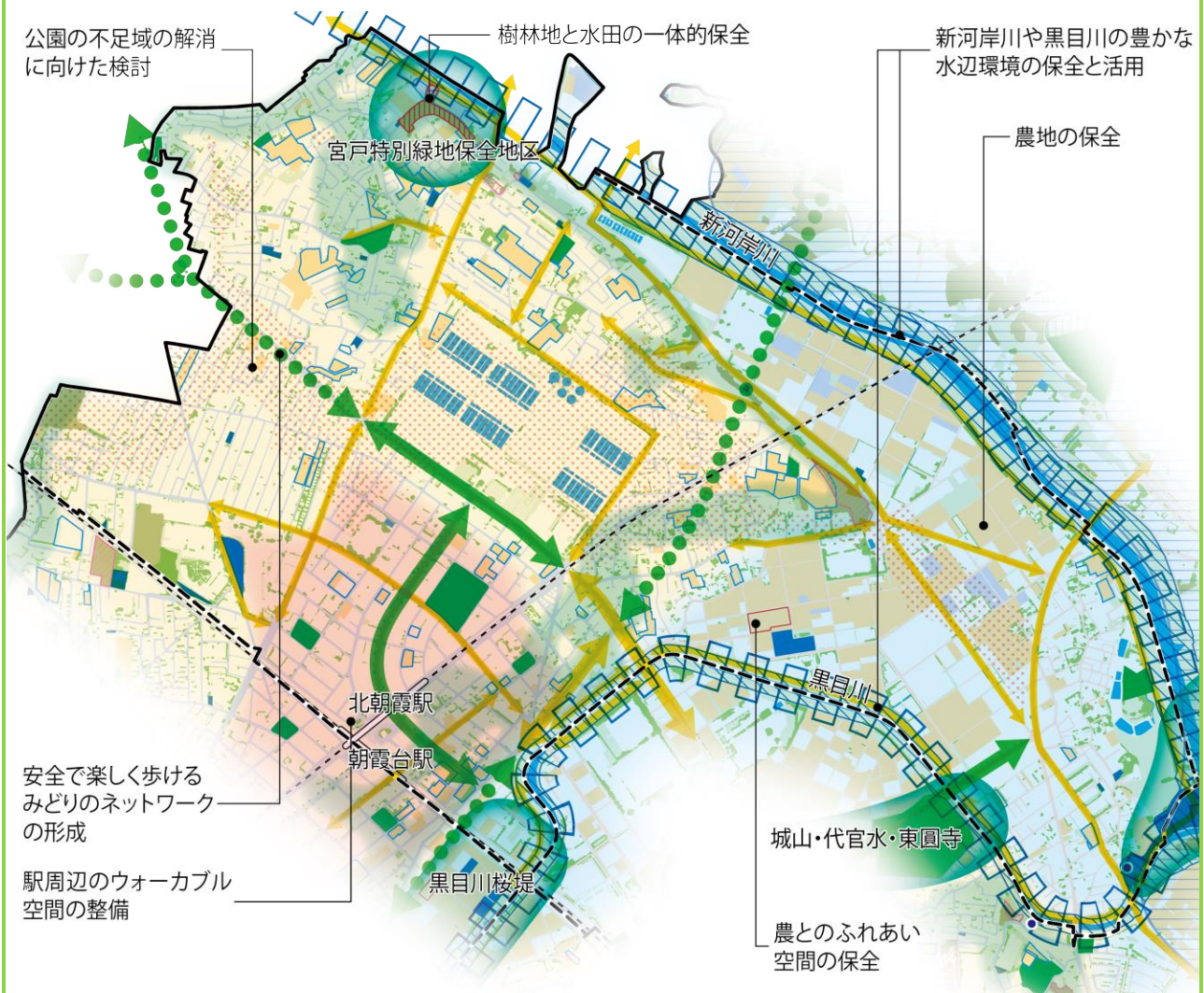
主要な課題

- 《身近な公園の不足》 人口の増加に公園の整備が追いついておらず、特に朝志ヶ丘や宮戸エリアで公園が不足しています。市民の公園に対する満足度も低い状況です。
- 《安全で快適な歩行者ネットワークの構築》 市民からは「みどり豊かで安全な歩道」を望む声が多く、駅から離れた地域などで、誰もが安心して歩ける道の整備が課題です。
- 《黒目川の保全と活用》 朝霞のみどりを象徴する黒目川は、その優れた自然環境を保全しながら、魅力を高め次世代に継承していくことが求められます。
- 《ヒートアイランド現象への対策》 住宅が密集しているため、ヒートアイランド現象を緩和するための緑化が重要になっています。
- 《防災機能の強化》 身近な防災拠点となる公園について、朝志ヶ丘や宮戸において不足しています。
- 《樹林地の保全》 樹林地は貴重な自然環境となっていますが、樹木の老齢化が進み「ナラ枯れ」被害が拡大しました。地区に残る樹林地を残すことに加え、持続性のある樹林地管理が求められます。
- 《農業景観の保全》 黒目川沿い、新河岸川沿いには良好な農業景観が広がっています。市民の暮らしを支える様々な役割を踏まえ保全が望まれます。また、宮戸緑地周辺には、斜面林と水田、河川からなる良好な農業景観が残されています。伝統的な農業景観の名残として貴重な空間であり保全が求められます。

主な取り組み

- ① 暮らしの質を高める身近なみどりを充実させる
 - a. 身近な公園が不足している地域では、市民緑地制度や立体都市公園制度、既存公園の充実など、新たな制度の活用を含め誰もが気軽に立ち寄れる憩いの空間づくりを目指します。
 - b. 都市計画道路等の整備により、安全で歩くことが楽しくなるような「みどりのネットワーク」の形成を目指します。
 - c. 雨水浸透や生物多様性の保全に貢献するまちなかの農地の保全を推進します。
- ② 黒目川・新河岸川を中心とした自然環境を保全・活用する
 - a. 公園が不足する本地域においては黒目川と新河岸川は貴重なみどりの空間です。保全活動の支援を図るとともに自然観察会やみどりの空間を活用したイベント開催などを通じて、市民が地域の自然の価値を再発見し、みどりへの愛着を深める機会を創出していきます。
 - b. 黒目川沿いの田園景観は、身近な農とのふれあい空間として貴重であるため、次世代に継承していくための保全活動を支援します。
 - c. 新河岸川の周辺の樹林地、農業景観を一体的なものとして捉え、その豊かな自然環境を次世代に継承していくための保全活動を支援します。
- ③ 持続可能な都市環境を築く
 - a. 駅前広場や公共空間の整備においては、人中心のウォークアブルな空間整備や交流の場との整備を推進します。
 - b. ヒートアイランド現象の緩和や地下水涵養などグリーンインフラの視点を取り入れた都市緑化を目指します。
 - c. ナラ枯れなどの課題を抱える樹林地については、専門家や市民と連携しながら、将来にわたって健全な状態を維持できるような管理のあり方を探求します。

みどりの方針図



みどりの取組み

	(現況)	(将来)
みどりの保全	特別緑地保全地区	
	河川区域	
	保護地区	
	生産緑地地区	
公園等の充実	都市公園	
	公園類似施設	
	公園不足域の解消検討	
	市民農園	
面的なみどりの充実	緑化推進	
	雨水浸透貯留の推進	(台地面)
	農地などの保全	(低地面)
	雨水貯留や緑化の推進	
	駅周辺のウォーカブル空間の整備	

みどりの拠点と軸

	(現況)	(将来)
みどりの拠点		
河川		
みどりの軸	歩道+街路樹	
	歩道	

現況のみどり

樹林地	植栽地	水田	畑地	草地	水面
地形のひだ(崖線)					
市域		地域界		鉄道	

0 500m



東部地域

面 積		人 口		みどり率		
3.6km ²		30,883 人		37.3%		
問 1 みどりに対する 満足度 (回答の平均)	b.お住いの近くのみどりの 豊かさや魅力に満足してい る			0.22 (そう思わない-1.0~ 1.0 と思う)		
	d.お住いの近くの公園に満足 している			-0.03 (そう思わない-1.0~ 1.0 と思う)		
	g.災害時に避難地や活動拠点 として機能する公園がある			0.01 (そう思わない-1.0~ 1.0 と思う)		
	h.良いまちの景観がつくられ ている			0.16 (そう思わない-1.0~ 1.0 と思う)		
問 2 豊か・魅力的と 感じるみどり	黒目川 (331 件)、城山公園 (70 件)、新河岸川 (22 件)、 越戸川 (12 件)、田島緑地 (9 件)、水久保公園 (6 件)、 朝霞駅周辺 (5 件)、高橋家住宅 (4 件)、東圓寺 (3 件)					
問 3 将来に残したいと 思うみどり	黒目川 (158 件)、城山公園 (85 件)、根岸台の斜面林 (10 件)、 新河岸川 (6 件)、柊塚古墳公園 (4 件)、水久保公園 (4 件)、朝霞駅周辺 (3 件)、高橋家住宅 (3 件)、越戸川 (3 件)、根岸台自然公園 (3 件)					
問 4 年間公園利用頻度 (回答の平均)	31.1 回 (市全体 30.9 回)					
問 5 近くの公園の 評価 (回答の平均)	a.ベンチなどの休憩施設が充 実している		0.07 (そう思わない-1.0 ~1.0 と思う)	b.安全に遊べる遊具が充 実している		-0.05 (そう思わない-1.0 ~1.0 と思う)
	c.公園の植物がよい景観をつ くっている		0.16 (そう思わない-1.0 ~1.0 と思う)	h.近くの住民によく利用さ れている		0.34 (そう思わない-1.0 ~1.0 と思う)
問 6 みどりの まちづくりに 必要な施策 (上位を表示)	【1 位】道路においてみどり豊かで安全に 歩ける歩道空間を整備する (18.2%)			【2 位】だれもが気軽に利用できるよ うに小規模でも身近な公園や緑地を 充実させる (16.8%)		
	【3 位】健康づくりや自然とのふれあいの 場となる川沿いの散歩道を充実させる (13.3%)			【4 位】民間の協力を得て、魅力的な 公園の空間を整備し運営する (7.4%)		
問 7 緑化活動等への 参加経験 (回答者における割 合)	【1 位】生け垣や花壇など自宅の庭の緑 化 (12.4%)			【2 位】道路などの清掃活動 (11.3%)		
	【3 位】全てに参加したことがない (10.6%)			【4 位】河川の清掃や草刈り (7.0%)		
問 10 みどりを守るための 仮定の支払額 (支払額の平均)	【1 位】水害の軽減など自然災害による 被害を軽減するみどり (¥142)			【2 位】CO2 の吸収減となり地球温 暖化を緩和するみどり (¥129)		
	【3 位】日射の緩和等により都市の気温 上昇を緩和するみどり (¥128)			【4 位】こどもの遊び場や散策の場と なるみどり (¥112)		



みどりのカルテ

地域	町丁目	雨水の 地表面 浸透量 (mm/日)	雨水の 地表面 排水量 (mm/日)	地表面 温度 (℃)	炭素 固定量 (t/ha/年)	生物指標 の 多様度 (%)	豊か・魅力 と 感じる みどりの 回答数 (件)	農業活動 空間 面積率 (%)	散策路・歩 道の長さ (m/ha)	必要公園面 積に対する 現況公園の 過不足面積 (ha)	イベント開 催に供する オープンス ペース面積 (㎡/人)	非水害時に おける一人 あたりの遊 難有効面積 (㎡/人)	水害時に おける一人 あたりの遊 難有効面積 (㎡/人)
東部	仲町1丁目	0.81	1.50	34.53	0.35	20.91	0.74	4.3%	15.9	-5.86	0.55	1.10	1.10
	仲町2丁目	0.69	1.70	33.97	0.87	24.46	2.72	8.0%	259.4	-6.65	1.22	0.85	0.85
	根岸台1丁目	0.98	1.34	34.27	0.70	25.82	1.55	11.5%	7.7	-6.11	0.53	1.12	1.12
	根岸台2丁目	1.31	0.95	33.11	1.94	36.14	4.05	27.3%	86.1	-2.14	3.96	2.97	4.03
	根岸台3丁目	0.59	1.47	33.96	0.81	28.08	1.53	2.4%	126.8	-3.57	9.40	6.78	7.45
	根岸台4丁目	1.25	0.97	33.03	1.85	41.11	3.25	17.7%	80.7	-1.69	4.00	2.02	2.34
	根岸台5丁目	1.04	1.38	33.81	1.04	27.96	3.17	17.0%	154.3	-4.14	0.98	0.54	0.54
	根岸台6丁目	1.05	1.38	33.91	1.08	25.89	2.42	18.7%	34.9	-5.35	1.34	0.98	0.98
	根岸台7丁目	1.27	1.01	33.26	1.77	37.86	4.48	23.9%	24.3	-2.65	3.00	2.60	2.60
	根岸台8丁目	1.31	0.87	32.71	2.28	41.79	5.67	19.5%	57.3	-1.69	5.54	3.77	2.88
	岡1丁目	0.98	1.34	33.99	0.99	26.07	2.20	16.4%	46.5	-4.57	1.65	2.91	2.76
	岡2丁目	1.05	1.06	32.99	1.76	38.26	2.66	5.1%	115.9	-0.81	15.01	15.72	0.76
	岡3丁目	0.91	1.07	33.12	1.49	37.59	20.15	6.7%	81.3	-0.72	12.59	8.20	3.61
	大字岡	0.57	0.65	32.43	2.32	35.45	45.77	28.6%	125.8	2.12	41.06	41.26	0.47
	大字台・根岸	0.52	0.43	31.91	2.49	36.29	28.14	26.6%	87.8	2.56	133.49	147.05	64.75
	大字溝沼の一部	0.40	1.22	33.23	1.13	25.22	37.02	9.5%	39.1	0.23	23.00	21.42	0.57
	地域全体	0.90	1.01	33.11	1.67	33.85	13.53	17.6%	81.9	-1.55	30.04	31.46	12.76
	朝霞市全域	0.77	1.08	33.06	1.59	32.47	11.22	9.9%	75.1	-1.21	32.12	32.95	14.95

グリーンインフラの効用別分析

健全な水循環を 支えるみどり	段丘面では宅地化が進み、農地などの自然的土地利用と都市的土地利用が混在しています。農地では雨水の浸透能力が高く、水害防止や地下水の涵養に役立っています。
都市の気温上昇を 抑えるみどり	域内は宅地化が進み、地表面温度が高い傾向にありますが、公園や斜面林などではクールスポットが形成され、ヒートアイランド現象の緩和に貢献しています。
地球温暖化防止に 貢献するみどり	段丘面の縁には斜面林が残り、農地も広く分布しているため、二酸化炭素の吸収源となっています。雑木林では老齢化やナラ枯れの被害が進んでいます。
生き物の 生息空間となる みどり	域内は宅地化が進む一方で、農地や樹林地が点在し、複雑なモザイク状の土地利用となっています。これにより生物多様性が高く、エコロジカルネットワークの役割も果たしています。
まちの美観・ 郷土の風景を 形成するみどり	黒目川は地域で最も魅力的なみどりとして評価されています。他にも公園や畑、並木道、里山などが地域の田園景観や斜面林として高く評価されています。
暮らしに息づく 農業活動の場となる みどり	大字岡や大字台・根岸には農地が連続して分布し、段丘面にも生産緑地が点在しています。身近な農業活動の場が充実した地域です。
健康づくりの 場となる みどり	黒目川や公園、斜面林など、みどり豊かな景観資源に恵まれています。これらを結ぶトレイルコースもあり、歩道ネットワークが一部未整備の区間もあります。
身近な 遊び場となる みどり	市街地では人口増加に公園整備が追いついておらず、特に朝霞駅周辺で不足しています。新たな公園整備や保全緑地が遊び場としての可能性を持っています。
にぎわいや 交流の場となる みどり	市街地、特に朝霞駅周辺ではイベント開催用のオープンスペースが不足しています。既存の公園や公共空間を活用し、交流の場を充実させることが重要です。
防災拠点となるみどり	防災拠点となる都市公園が不足しています。

東部地域のみどりの方針

主要な課題

- 《農地や斜面林と調和したまちづくり》宅地化が進む中で、崖線(がけせん)のみどりや田園風景といった、この地域ならではの景観をいかにして守り、まちづくりと両立させるかが大きな課題です。
- 《都市環境の保全》宅地化が進む中で、みどりが持つ環境調整機能(地下水涵養や水害抑制、ヒートアイランド現象の緩和、生物多様性の保全など)を維持していく必要があります。
- 《みどりのネットワークの形成》点在する公園や緑地を、快適な遊歩道でつなぎ、まち歩きを楽しめるような「みどりのネットワーク」を作ることが求められています。
- 《中心市街地における憩いの空間の創出》人口が集中する朝霞駅周辺は、公園が不足しており、こどもたちの遊び場や多世代が交流できるオープンスペースの確保が求められます。一方で身近な公園整備が進められており、公園を核としたコミュニティ活動の促進も求められます。
- 《防災機能の強化》身近な防災拠点となる公園について仲町から根岸台1丁目・5丁目・6丁目付近において不足しています。

主な取り組み

①景観資産を保全し、まちの安全性と魅力を高める

- 良好な住環境の形成の寄与する崖線のみどりや農地などの景観を保全していくため、市民や民間事業者へその重要性を働きかけていきます。
- 崖線部には良好な自然環境を象徴する湧水が多く残されており、地下水の浸透起源となる台地面の浸透能の保全を図ります。農地や樹林地の保全に加え、開発地には雨水を一時的に貯留・浸透させる仕組みづくりなどを通じて、湧水の保全と都市型水害のリスク軽減に繋がる取り組みを推進します。
- 旧高橋家住宅などの地域のみどりと一体となった歴史文化資源の保全を図ります。また、地域の歴史や文化を感じられる資産を巡るトレイルコースなどを充実させ、市民が地域の魅力にふれ、誇りを持てるような機会を増やしていきます。

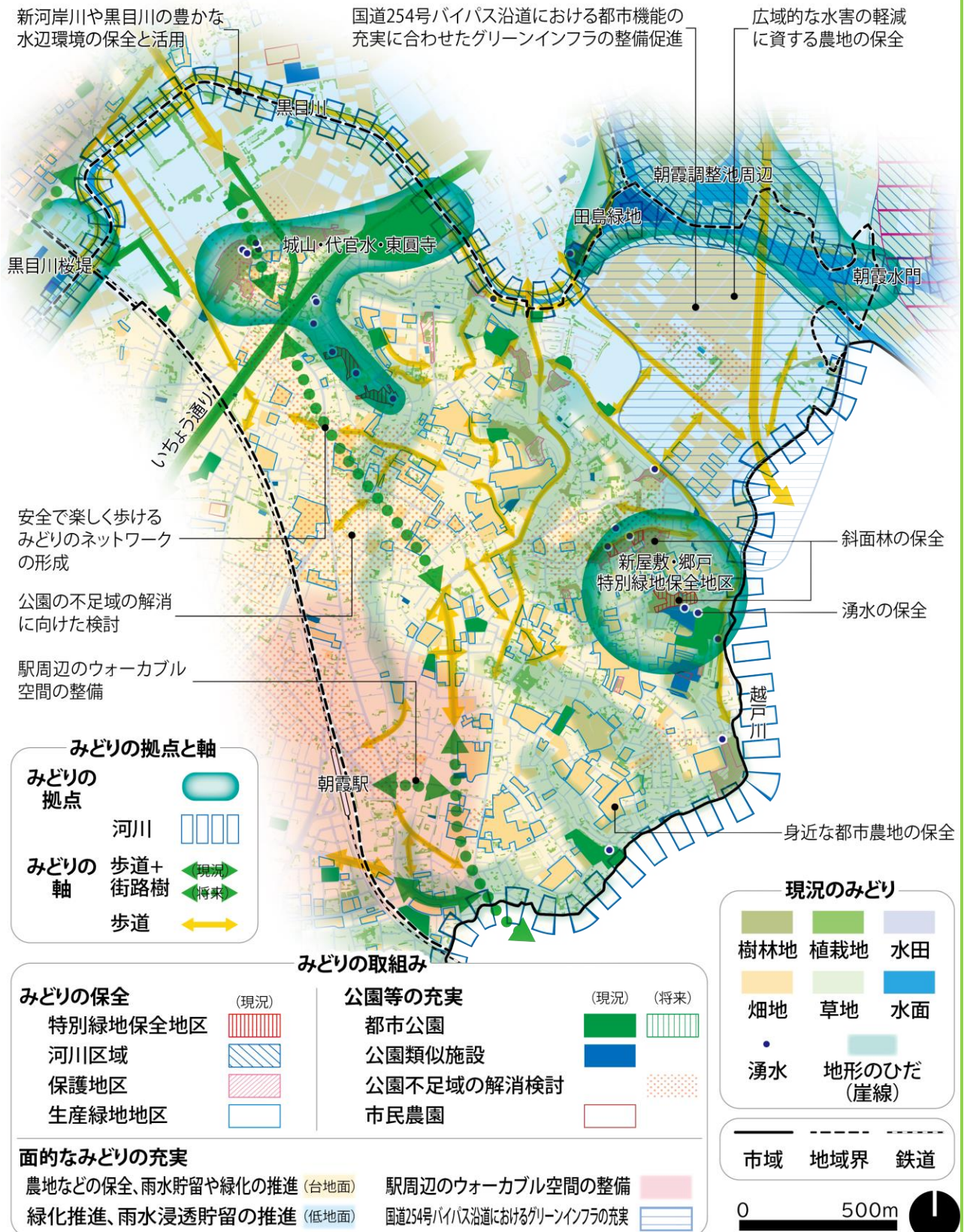
②暮らしを支える身近なみどりを創出する

- 身近な公園が不足している駅周辺の地域では、市民緑地制度や立体都市公園制度、既存公園の充実など、新たな制度の活用を含め誰もが気軽に立ち寄れる憩いの空間づくりを目指します。
- 民間開発と連携したオープンスペースの確保などを検討します。
- ヒートアイランド現象の緩和や地下水涵養などグリーンインフラの視点を取り入れた都市緑化を目指します。

③みどりのある暮らしの実践

- 本地域にある農地や樹林地、歴史文化資源が身近であることから、農体験や自然学習などの機会の充実を目指します。
- 地産地消の推進や公園サポーターへの参加、自宅などの緑化活動など、みどりを楽しむ暮らしの実践に向けた取り組みを推進します。

みどりの方針図



西部地域

面 積		人 口		みどり率		
2.2km ²		29,563 人		18.9%		
市民アンケート調査	問 1 みどりに対する満足度 (回答の平均)	b.お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している		-0.10 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)		
		d.お住いの近くの公園に満足している		-0.10 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)		
		g.災害時に避難地や活動拠点として機能する公園がある		-0.14 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)		
		h.良いまちの景観がつくられている		-0.10 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)		
	問 2 豊か・魅力的と感じるみどり	黒目川（331 件）、島の上公園（7 件）、南割公園（6 件）				
	問 3 将来に残したいと思うみどり	黒目川（154 件）、島の上公園（10 件）、南割公園（7 件）、朝霞台駅の木々（2 件）、弁財公園（2 件）				
	問 4 年間公園利用頻度 (回答の平均)	21.9 回（市全体 30.9 回）				
	問 5 近くの公園の評価 (回答の平均)	a.ベンチなどの休憩施設が充実している	-0.07 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)	b.安全に遊べる遊具が充実している	-0.01 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)	
		c.公園の植物がよい景観をつくっている	0.07 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)	h.近くの住民によく利用されている	0.43 (そう思わない-1.0～1.0 と思う)	
	問 6 みどりのまちづくりに必要な施策 (上位を表示)	【1 位】道路においてみどり豊かで安全に歩ける歩道空間を整備する（18.6%）		【2 位】だれもが気軽に利用できるように小規模でも身近な公園や緑地を充実させる（15.3%）		
		【3 位】健康づくりや自然とのふれあいの場となる川沿いの散歩道を充実させる（12.4%）		【4 位】民間の協力を得て、魅力的な公園的空間を整備し運営する（9.3%）		
	問 7 緑化活動等への参加経験 (回答者における割合)	【1 位】全てに参加したことがない（13.0%）		【2 位】道路などの清掃活動（9.7%）		
		【3 位】生け垣や花壇など自宅の庭の緑化（9.3%）		【4 位】市民農園や近所の空き地を借りた野菜や草花の生産（8.0%）		
	問 10 みどりを守るための仮定の支払額 (支払額の平均)	【1 位】CO2 の吸収減となり地球温暖化を緩和するみどり（¥182）		【2 位】日射の緩和等により都市の気温上昇を緩和するみどり（¥141）		
		【3 位】避難地や防災拠点として災害時の生活を復旧・支援するみどり（¥121）		【4 位】水害の軽減など自然災害による被害を軽減するみどり（¥118）		

みどりのカルテ

地域	町丁目	雨水の 地表面 浸透量 (mm/日)	雨水の 地表面 排水量 (mm/日)	地表面 温度 (℃)	炭素 固定量 (t/ha/年)	生物指標 の 多様度 (%)	豊か・魅力 と 感じる みどりの 回答数 (件)	農業活動 空間 面積率 (%)	散策路・歩 道の長さ (m/ha)	必要公園面 積に対する 現況公園の 過不足面積 (ha)	イベント開 催に供する オープンス ペース面積 (㎡/人)	非水害時に おける一人 あたりの避 難有効面積 (㎡/人)	水害時に おける一人 あたりの避 難有効面積 (㎡/人)
西部	東弁財1丁目	0.18	2.17	34.67	0.09	11.45	0.21	0.0%	293.4	-9.39	1.95	1.60	1.60
	東弁財2丁目	0.57	1.45	34.06	0.73	24.17	2.29	9.3%	74.0	-5.68	6.94	2.17	1.43
	東弁財3丁目	0.67	1.64	34.27	0.26	21.49	1.20	0.6%	70.3	-5.16	3.23	3.11	2.10
	西弁財1丁目	0.51	1.77	34.58	0.13	16.89	1.21	0.0%	101.3	-4.61	1.07	1.51	1.51
	西弁財2丁目	0.35	2.04	34.73	0.12	14.71	0.23	0.0%	257.4	-8.92	0.59	1.62	1.62
	三原1丁目	0.64	1.71	34.42	0.42	23.36	1.24	3.1%	70.6	-6.61	0.39	1.59	1.59
	三原2丁目	0.72	1.59	34.46	0.36	24.57	0.72	2.8%	52.3	-7.95	0.57	0.93	0.93
	三原3丁目	0.91	1.32	34.12	0.62	29.13	1.05	3.8%	61.2	-6.57	0.76	0.84	0.84
	三原4丁目	0.62	1.52	34.65	0.20	25.69	0.37	0.0%	28.0	-7.76	1.04	1.02	1.02
	三原5丁目	0.72	1.58	34.20	0.60	23.73	1.40	9.1%	33.3	-4.56	0.56	0.71	0.71
	泉水1丁目	0.74	1.70	34.27	0.79	19.83	2.12	11.6%	103.8	-2.08	3.22	2.27	3.63
	泉水2丁目	0.83	1.44	33.80	1.13	25.97	2.71	15.8%	42.3	-3.54	5.68	3.53	3.32
	泉水3丁目	0.75	1.55	33.89	0.97	26.62	1.53	4.2%	57.8	-3.85	3.94	4.20	1.78
	膝折町3丁目の一部	0.78	1.45	33.96	0.89	25.95	14.65	5.0%	16.3	-1.58	7.56	2.09	3.88
	膝折町4丁目の一部	0.48	1.69	33.93	0.72	22.79	21.96	2.0%	56.1	-3.57	6.98	3.87	5.14
	大字浜崎の一部	0.70	0.51	32.07	3.11	40.82	41.28	56.7%	46.9	0.35	10.96	4.07	0.43
	大字溝沼の一部	0.78	0.82	32.58	1.97	31.69	56.08	27.7%	49.0	0.24	8.33	5.85	2.17
地域全体		0.69	1.50	33.99	0.80	25.04	9.17	8.0%	65.9	-4.55	3.58	2.64	2.02
朝霞市全域		0.77	1.08	33.06	1.59	32.47	11.22	9.9%	75.1	-1.21	32.12	32.95	14.95

健全な水循環を 支えるみどり

段丘面では都市的土地利用が多く、雨水の浸透量は市全体よりも低くなっています。一方、農地や公園などの自然面では雨水浸透能力が高く、水害防止や地下水の涵養に貢献しています。

都市の気温上昇を 抑えるみどり

域内は都市的土地利用が多いため、全体的に地表面温度が高い傾向があります。しかし、黒目川沿いには冷涼な空間が带状に形成され、斜面林などの樹林が分布するエリアではクールスポットができており、ヒートアイランド現象の緩和に役立っています。

地球温暖化防止に 貢献するみどり

域内は都市的土地利用が多いため、全体として炭素固定能力は低くなっています。段丘崖の斜面林や黒目川の草地、大字浜崎・大字溝沼などの畑地は、二酸化炭素の吸収源としての役割を果たしています。

生き物の 生息空間となる みどり

黒目川は水域と草地の生物生息環境が組み合わさり、生物指標の多様度が高くなっています。斜面林や公園・学校の植栽などの樹林、小区画の畑地が分布し、崖線下には湧水があり、市街地の中に小規模な生き物空間が形成されています。

まちの美観・ 郷土の風景を 形成するみどり

黒目川は豊かで魅力的なみどりとして最も多く評価されています。他には島の上公園や南割公園の評価が続き、公園や畑、並木道、里山、民有地のみどりなども地域の景観資源として評価されています。一方で、みどりの景観資源が乏しい地区も存在します。

暮らしに息づく 農業活動の場となる みどり

域内の身近な農業活動空間としては、大字浜崎から大字溝沼にかけて農地が分布しています。また、市街地では泉水などに小規模な農地が点在し、みどりが少ない三原周辺にも農地が残されています。

健康づくりの 場となる みどり

黒目川沿いはジョギングや散歩のコースとして親しまれています。北朝霞駅周辺や幹線道路では歩道ネットワークも充実していますが、駅から離れたエリアでは十分ではありません。

身近な 遊び場となる みどり

域内の市街地では人口増加に公園整備が追いついておらず、公園が全体的に不足しています。特に三原から東弁財にかけて不足しています。黒目川などが遊び場としてのポテンシャルを持っています。

にぎわいや 交流の場となる みどり

イベント開催に使えるオープンスペースが不足しています。ハード整備だけでなく、既存公園や公共空間を柔軟に活用し、交流の場を充実させることが重要です。

防災拠点となるみどり

三原では防災拠点となる都市公園が不足しています。

西部地域のみどりの方針

主要な課題

- 《都市基盤としての「グリーンインフラ」の拡充》建物や道路など、水が浸透しにくい地面が多いため、大雨の際に雨水が一気に流れ出すリスクがあるほか、ヒートアイランド現象が顕著です。みどりを増やし、都市の基盤(インフラ)として機能させる「グリーンインフラ」の考え方が特に重要になります。
- 《身近な公園の不足》住民のみどりや公園に対する満足度が低く、公園の数と質の両面からの改善が求められています。特に三原や東弁財エリアでは公園が不足しており、身近な公園の設置を望む声が非常に強いです。
- 《安全で快適な歩行者ネットワークの構築》駅から離れた地域では歩道が十分に整備されておらず、安全な歩行空間の確保が課題です。
- 《黒目川の保全と活用》朝霞のみどりを象徴する黒目川は、その優れた自然環境を保全しながら、魅力を高め次世代に継承していくことが求められます。
- 《防災機能の強化》身近な防災拠点となる公園が不足しており、特に三原などで顕著です。
- 《市民参加の促進》清掃活動などの緑化活動への参加経験がある住民が少ない傾向があります。みどりへの愛着を育み、市民が主体となったまちづくりを進めるためのきっかけ作りが必要です。

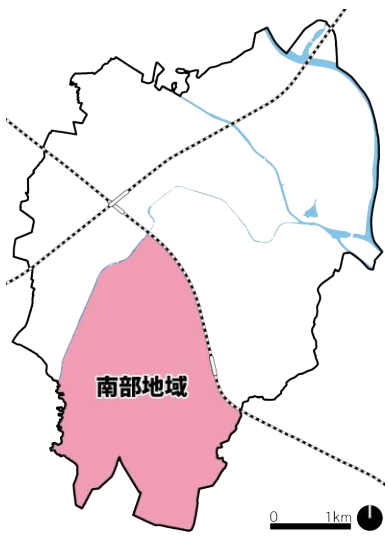
主な取り組み

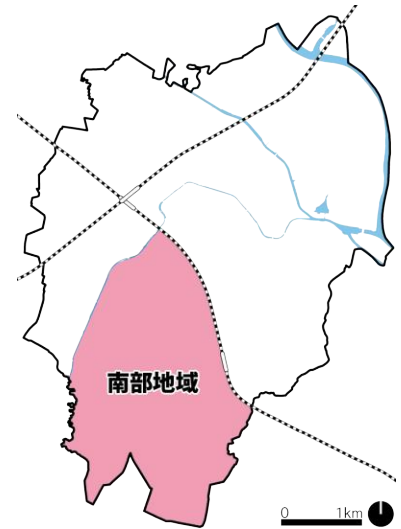
- ① グリーンインフラで都市の環境機能を向上させる
 - a. ヒートアイランド現象の緩和や地下水涵養などグリーンインフラの視点を取り入れた都市緑化を目指します。
 - b. 公園や公共施設などにおいて、雨水を浸透させる機能の充実を図るとともに、民間においても開発時の指導において雨水浸透貯留施設の設置などグリーンインフラを踏まえた取り組みを促進します。
- ② 暮らしを支える身近なみどりを創出する・育てる
 - a. 本地域は、身近な公園が不足しているため、市民緑地制度や既存公園の充実など新たな制度の活用を含め、誰もが気軽に立ち寄れる憩いの空間づくりを目指します。
 - b. 都市計画道路の整備において、歩道や街路樹の充実を図り、誰もが安全で快適な歩きたくなるまちづくりを目指します。
- ③ 市民協働でみどりを育む文化を醸成する
 - a. 公園が不足する本地域においては黒目川は貴重なみどりの空間です。保全活動の支援を図るとともに自然観察会やみどりの空間を活用したイベント開催などを通じて、市民が地域の自然の価値を再発見し、みどりへの愛着を深める機会を創出していきます。
 - b. 市民が主体となった公園の清掃活動や花壇づくりなどを支援し、協働による維持管理の輪を広げていきます。
 - c. 緑化活動に関心のある人が集い、楽しく学べるワークショップなどの機会を提供し、地域コミュニティの活性化を図ります。

みどりの方針図



南部地域

面 積		人 口		みどり率	
5.3km ²		53,204 人		26.6%	
市民アンケート調査	問 1 みどりに対する満足度 (回答の平均)	b.お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している		0.41 (そう思わない-1.0～1.0 思う)	
		d.お住いの近くの公園に満足している		0.29 (そう思わない-1.0～1.0 思う)	
		g.災害時に避難地や活動拠点として機能する公園がある		0.22 (そう思わない-1.0～1.0 思う)	
		h.良いまちの景観がつくられている		0.34 (そう思わない-1.0～1.0 思う)	
	問 2 豊か・魅力的と感じるみどり	黒目川 (331 件)、青葉台公園 (116 件)、シンボルロード (115 件)、朝霞の森 (106 件)、市役所周辺 (48 件)、朝霞中央公園 (43 件)、滝の根公園 (35 件)、公園通り (29 件)、米軍基地跡地 (15 件)、朝霞駅周辺 (5 件)、広沢の池 (3 件)			
	問 3 将来に残したいと思うみどり	朝霞の森 (158 件)、黒目川 (154 件)、青葉台公園 (55 件)、シンボルロード (42 件)、米軍基地跡地 (34 件)、滝の根公園 (27 件)、公園通り (14 件)、朝霞中央公園 (13 件)、市役所周辺 (9 件)、朝霞駅周辺 (3 件)、広沢の池 (3 件)			
	問 4 年間公園利用頻度 (回答の平均)	35.9 回 (市全体 30.9 回)			
	問 5 近くの公園の評価 (回答の平均)	a.ベンチなどの休憩施設が充実している	0.19 (そう思わない-1.0～1.0 思う)	b.安全に遊べる遊具が充実している	0.16 (そう思わない-1.0～1.0 思う)
		c.公園の植物がよい景観をつくっている	0.37 (そう思わない-1.0～1.0 思う)	h.近くの住民によく利用されている	0.51 (そう思わない-1.0～1.0 思う)
	問 6 みどりのまちづくりに必要な施策 (上位を表示)	【1 位】道路においてみどり豊かで安全に歩ける歩道空間を整備する (18.8%)		【2 位】だれもが気軽に利用できるように小規模でも身近な公園や緑地を充実させる (14.0%)	
【3 位】健康づくりや自然とのふれあいの場となる川沿いの散歩道を充実させる (11.8%)		【4 位】民間の協力を得て、魅力的な公園的空間を整備し運営する (8.2%)			
問 7 緑化活動等への参加経験 (回答者における割合)	【1 位】全てに参加したことがない (14.5%)		【2 位】道路などの清掃活動 (10.2%)		
	【3 位】生け垣や花壇など自宅の庭の緑化 (10.1%)		【4 位】身近な生き物観察やみどりの調査 (6.5%)		
問 10 みどりを守るための仮定の支払額 (支払額の平均)	【1 位】CO2 の吸収減となり地球温暖化を緩和するみどり (¥156)		【2 位】水害の軽減など自然災害による被害を軽減するみどり (¥142)		
	【3 位】日射の緩和等により都市の気温上昇を緩和するみどり (¥118)		【4 位】避難地や防災拠点として災害時の生活を復旧・支援するみどり (¥115)		



みどりのカルテ

地域	町丁目	雨水の 地表面 浸透量 (mm/日)	雨水の 地表面 排水量 (mm/日)	地表面 温度 (℃)	炭素 固定量 (t/ha/年)	生物指標 の 多様度 (%)	豊か・魅力 と 感じる みどりの 回答数 (件)	農業活動 空間 面積率 (%)	散策路・歩 道の長さ (m/ha)	必要公園面 積に対する 現況公園の 過不足面積 (ha)	イベント開 催に供する オープンス ペース面積 (㎡/人)	非水害時に おける一人あ たりの避難 有効面積 (㎡/人)	水害時に おける一人あ たりの避難 有効面積 (㎡/人)
南部	本町1丁目	0.70	1.61	34.34	0.40	20.62	1.71	2.6%	97.4	-3.06	3.07	4.20	4.19
	本町2丁目	0.68	1.68	34.71	0.14	17.19	0.47	0.0%	73.6	-6.44	3.11	2.92	2.92
	本町3丁目	0.88	1.42	33.69	0.99	27.05	3.04	13.5%	159.6	1.15	5.49	6.56	6.55
	栄町1丁目	0.77	1.46	34.23	0.41	25.37	1.27	1.8%	32.8	-3.81	4.97	7.14	7.14
	栄町2丁目	0.70	1.55	34.24	0.55	26.58	1.13	4.9%	66.9	-6.82	1.21	2.51	2.51
	栄町3丁目	0.52	1.99	34.50	0.37	21.01	0.61	0.0%	129.4	-6.30	5.44	9.16	9.16
	栄町4丁目	0.46	2.05	34.32	0.12	19.43	0.36	0.0%	256.7	-2.30	3.04	6.78	6.78
	栄町5丁目	0.88	1.59	34.01	0.44	20.55	0.86	0.3%	161.9	4.08	11.91	26.02	26.02
	幸町1丁目	0.83	1.47	34.22	0.48	24.69	1.13	5.9%	97.9	1.67	8.65	14.26	14.26
	幸町2丁目	0.77	1.53	34.41	0.28	25.62	0.48	0.0%	85.0	-3.92	4.45	21.22	21.22
	幸町3丁目	0.97	1.46	33.66	0.92	23.42	1.56	0.1%	97.4	0.04	8.30	39.77	39.77
	膝折町1丁目	0.94	1.33	34.18	0.69	26.36	1.61	10.5%	23.1	-4.20	3.35	4.59	4.69
	膝折町2丁目	0.58	1.56	33.81	0.86	25.99	12.16	5.7%	108.7	-2.56	6.23	12.80	12.80
	膝折町3丁目の一部	0.37	1.54	33.63	0.59	23.73	80.94	0.0%	22.1	-1.96	5.77	0.91	2.14
	膝折町4丁目の一部	0.77	1.27	33.99	0.64	22.96	21.78	5.4%	23.7	-3.87	5.70	3.25	3.88
	膝折町5丁目	0.99	1.24	33.97	1.22	25.04	2.99	26.7%	4.3	-2.36	3.94	5.13	5.20
	溝沼1丁目	0.75	1.50	34.32	0.61	25.70	1.27	6.5%	53.1	-1.76	4.74	4.76	4.76
	溝沼2丁目	0.80	1.37	33.83	1.03	30.57	7.48	7.5%	92.7	-4.81	2.08	2.23	1.35
	溝沼3丁目	0.87	1.22	34.14	0.76	26.59	1.58	6.4%	10.2	-4.45	4.90	4.82	3.19
	溝沼4丁目	0.50	1.55	34.30	0.49	24.12	0.97	4.3%	35.8	-5.61	7.58	6.54	1.91
	溝沼5丁目	0.63	1.33	33.90	0.77	31.27	1.71	8.0%	67.7	-6.33	3.01	3.53	1.72
	溝沼6丁目	0.49	1.33	34.01	0.78	31.76	1.37	5.0%	49.4	-4.17	3.58	2.75	1.97
	溝沼7丁目	0.39	1.31	34.07	0.58	27.31	1.24	6.3%	44.8	-5.07	8.98	3.32	0.32
	大字溝沼の一部	0.60	0.87	32.76	1.65	31.29	63.33	18.6%	66.3	0.04	9.44	6.02	0.96
	青葉台1丁目	1.28	1.22	32.46	2.01	38.12	38.31	1.0%	226.0	10.98	18.69	33.89	33.89
	大字膝折	1.99	0.46	30.90	3.51	48.83	55.49	0.0%	195.7	12.76	25.05	42.47	42.47
	自衛隊	1.42	1.07	32.60	1.92	37.07	2.81	0.0%	26.8	1.61	64.50	81.92	81.92
	自衛隊	1.95	0.50	31.61	3.47	46.70	2.32	0.0%	10.7	0.44	32.32	58.74	58.74
	自衛隊	1.42	1.03	32.53	1.78	37.95	2.72	0.1%	13.4	2.97	142.55	144.83	144.83
	地域全体	0.97	1.28	33.49	1.19	29.50	9.82	4.0%	78.6	-0.79	21.62	28.79	28.36
	朝霞市全域	0.77	1.08	33.06	1.59	32.47	11.22	9.9%	75.1	-1.21	32.12	32.95	14.95

グリーンインフラの効用別分析

健全な水循環を支えるみどり	都市化が進んでいますが、基地跡地や自衛隊敷地、農地などでは雨水の浸透量が高く、水害防止や地下水の涵養に役立っています。
都市の気温上昇を抑えるみどり	宅地化により地表面温度が高い傾向ですが、基地跡地や自衛隊敷地はクールスポットとなり、ヒートアイランド現象の緩和に貢献しています。
地球温暖化防止に貢献するみどり	都市化が進む中、基地跡地や自衛隊敷地の樹林地や草地は二酸化炭素の吸収源となっていますが、雑木林ではナラ枯れの被害が増えています。
生き物の生息空間となるみどり	基地跡地や自衛隊敷地の樹林や草地は生物多様性が高く、地域のエコロジカルネットワークの一部として機能しています。
まちの美観・郷土の風景を形成するみどり	黒目川や基地跡地周辺の緑地景観が高く評価されており、公園や畑、並木道なども地域のみどりとして認識されていますが、みどりが少ない地区もあります。
暮らしに息づく農業活動の場となるみどり	溝沼や膝折町、本町3丁目付近には農地が点在し、身近な農業活動の場が残されています。
健康づくりの場となるみどり	朝霞駅から基地跡地周辺は並木道や遊歩道が整備され、健康づくりに役立っていますが、一部地域では歩道ネットワークが十分ではありません。
身近な遊び場となるみどり	基地跡地周辺や和光市・練馬区に接するエリアは公園が充実していますが、その他のエリアでは公園が不足しています。
にぎわいや交流の場となるみどり	朝霞の森などではイベントが開催され、交流の場となっていますが、他の場所ではイベント用スペースが不足しており、既存の公園や公共空間の活用が重要です。
防災拠点となるみどり	青葉台公園や朝霞中央公園などまとまった公園があることから概ね充足しています。

南部地域のみどりの方針

主要な課題

- 《大規模緑地の保全と機能維持》 基地跡地などの大規模な緑地は、都市の気温上昇を抑え、二酸化炭素(CO2)の吸収源となる、まさに「都市の肺」のような存在です。この貴重な環境を適切に管理し、その機能を維持していくことが不可欠です。
- 《みどりの偏在の是正》 基地跡地などに大規模な公園が集中している一方で、その他の住宅地では身近な公園が不足しており、みどりの配置に偏りが見られます。
- 《みどりのネットワークの形成》 市民からは「みどり豊かで安全な歩道」を望む声が多くなっています。本町や溝沼エリアでは誰もが安心して歩ける道の整備が求められています。
- 《都市基盤としての「グリーンインフラ」の拡充、都市環境の維持》 基地跡地などまとまった緑地以外は建物や道路など、水が浸透しにくい地面が多いため、それらの地域では大雨の際に雨水が一気に流れ出すリスクがあり、ヒートアイランド現象が顕著です。みどりを増やし、都市の基盤(インフラ)として機能させる「グリーンインフラ」の考え方が特に重要になります。
- 《コミュニティの場の形成》 大規模な公園以外に、地域住民が気軽に集えるようなオープンスペースが少なく、コミュニティ活性化の観点からも課題となっています。
- 《樹林地の保全》 樹林地は貴重な自然環境であることから、樹林地を残すとともに、持続性のある樹林地管理が求められます。

主な取り組み

- ① 大規模緑地を保全し、その価値を高める
 - a. 基地跡地などの貴重な緑地は、朝霞のまちなかのグリーンインフラの要として、公園整備の推進やみどりの多面的機能の保全を図ります。
 - b. 朝霞の森周辺では、貴重なみどりを環境学習やにぎわいの場として活用するなど、その価値を多くの市民と共有し、未来へ継承していくための取り組みを進めます。
- ② みどりの恵みを地域全体に行き渡らせる
 - a. 公園が不足している住宅地において、計画的なオープンスペースの確保を検討し、みどりの配置の偏り是正を目指します。
 - b. 駅周辺地域では、人中心のウォーカブルな空間整備を進めるとともに、大規模緑地と住宅地をみどり豊かな歩道などでつなぎ、誰もが安全にみどりの恵みへアクセスできるネットワークの形成を目指します。みどりのネットワークの充実においては、まちなかベンチやポケットパークなど休息機能や滞留機能を持つ空間の充実を図ります。
- ③ グリーンインフラにより暮らしの安全と快適性を向上させる
 - a. 本地域には公共施設が多く分布しており、地域の健全な水循環やヒートアイランド現象の緩和、生物多様性の保全等に貢献していることから、引き続きグリーンインフラの視点に配慮した環境の維持を促進します。
 - b. 民有地では、農地や樹林地の保全のほか、開発時の緑化や雨水浸透貯留施設の設置を促進します。また、みどりのカーテンの普及などを通じて夏の暑さを和らげるとともに、小さなオープンスペースを創出し、コミュニティの活性化にも繋がるような取り組みを支援します。
 - c. これらの取り組みにより、都市型水害の防止や湧水の保全、ヒートアイランド現象の緩和を目指します。

みどりの方針図

